【一】

次の文章を読み、後の問いに答えよ。

食べものを作る環境、「キッチン」のことを考えてみましょう。

これまでのテクノロジー全体の歴史を振り返ると、食べものに関するテクノロジーは、あまり表舞台には登場しませんでした。自動車、ⓐ＿＿＿センパク、飛行機、通信といった重厚長大な工業・軍事産業の発達に関するテクノロジーの話題がどちらかといえば主流でした。食べもののテクノロジーが話題になるのは、たいてい品種改良、耕作技術、ⓑ＿＿＿灌漑技術、バイオテクノロジーのような分野であり、生活に身近なキッチンの道具とⓒ＿＿＿絡めて語られることはほとんどありませんでした。［　A　］、泡立て器、レモン絞り器、スプーンにさえ、さまざまな発明によるテクノロジーが詰まっています。

［　B　］、もともと軍事目的で開発に取り組んできた成果が、キッチンで花開いた事例もたくさんあります。［　C　］、１９１３年、イギリスのハリー・ブレアリーが、銃身を進化させるためにステンレス鋼を開発しましたが、これはのちに、世界のカトラリー(注1)を進化させる結果となりました。［　D　］、１９４５年頃、アメリカのパーシー・スペンサーは、海軍のレーダーシステムの開発に取り組んでいたところ、偶然新しい調理法を発見しました。これが、現在の電子レンジです。

料理をおいしくする、また、新しい料理を生み出す原動力として、ⓐ＿＿＿サイエンスとテクノロジーを比べた場合、テクノロジーの方が歴史的にみれば先に登場しています。観察、仮説、検証といった一連の科学的手法が実験に組み込まれたかたちの近代科学が誕生したのは、17世紀のことです。それに対して、テクノロジーの起源は、数万年前にさかのぼります。すでに石器時代には、黒曜石の先端を尖らせた精巧な〝ナイフ〟を使って食材を切っており、もっといい作り方はないかという工夫が何万年も重ねられてきました。ⓓ＿＿＿膨大な数の人間が、膨大な数の試行錯誤を重ねてきたテクノロジーの集積が、キッチンにはぎっしりと詰まっています。

その「キッチンテクノロジー」の過去、現在、未来も見ていきましょう。

ⓘ＿＿＿調理器具や調理機器は、テクノロジー全体だけでなく、食の歴史の中でもあまり日の目をみない存在でした。食の歴史では、食べる料理そのものや料理人などにはよくスポットが当たりますが、調理道具は、そうとはいえません。冷蔵庫、電子レンジといった数少ない例外はあるものの、これまで世間の注目を浴びてきたのは、調理道具ではなく、圧倒的に完成した料理の方です。つまりこれは、人が「どのように調理したか」ではなく、「何を調理したか」に関心が高いことを示しています。現在でも、食材、料理、レストラン、料理人に関する書籍などはあふれていますが、それらと比べて、キッチンで使う道具に関する本は、ほとんど見当たらないのが現状です。

新しい道具やテクノロジーを使うことで、食べたときの感覚、栄養のⓔ＿＿＿ショウカ吸収、料理のイメージなどは、その都度大きく変わってきました。さ

らに、テクノロジーの発展は、人々のキッチンでのカコクな労働を軽減してきました。人を台所に張りつく生活から解放した大きな要因のひとつに、炊飯器や電子レンジなどといった便利な調理機器の存在があります。人は、キッチンテクノロジーによって、食だけでなく、生活そのものを変化させてきたといえます。

前にお話ししたように、電子レンジは、もともと軍事技術を転用して生まれたものです。また、包丁は、食材を切るための道具ですが、人の命を奪うこともできます。テクノロジーの善し悪しはその使い方次第であり、また中立的な立場にも立っていません。テクノロジーの本質に迫る「クランツバーグの法則」の第1法則「テクノロジーは、善でも悪でもない。中立でもない」の通りです。この法則は、キッチンテクノロジーにもよく当てはまり、「テクノロジーの発展は、技術的な創意工夫が、直接の目標をはるかに超えるような結末をよく招く」ということを示唆しています。

未来のキッチンテクノロジーを考える上で大事なことは、新たなテクノロジーをキッチンの中だけで考えるのではなく、食以外のさまざまな分野のテクノロジーを食の世界にうまく落とし込むことではないかと思います。

すり鉢やすりこぎのように、ほとんど原理が変わらず、物理的な力で食材を潰すという目的で何千年も使い続けられる調理道具がある一方で、加熱調理機器のように、対流、伝導、放射伝熱といったさまざまな原理による、目的別の専門性の高い道具が数多く生み出されているジャンルもあります。

新しい調理道具自体は、次々と生まれていますが、それらが、従来のものよりも便利であるとは必ずしも限りません。電気で動く自動みじん切り器などは、食材をあっという間に細かくしてくれる道具ですが、少量であれば包丁の方が簡単にスませることができたり、洗う手間がかからない場合もあります。キッチンが最新の自動調理家電だけで占められることなく、包丁やおたまといった手動の道具と共存しているのは、それらの古典的テクノロジーの方が役に立つ場合が多いか、不都合な場合が少ないことを意味しています。

キッチンテクノロジーの長い歴史からみれば、現在私たちが使っている調理道具よりも、消えてしまったものの方が圧倒的に多くあります。キッチンだけに限りませんが、テクノロジーの歴史は、失敗の歴史であるともいえます。どのような調理道具が栄え、どのような調理道具が消えていくのでしょうか。それは、これまでがそうだったように、生物の進化と同じく、周りの社会や環境の変化などの影響を受けて、刻々と変化していくでしょう。

たくさん作られてきたジャンルの調理道具、たとえば包丁やおたまなどは、たくさんの〝自然選択〟を経て今のほぼ完成されたかたちになっており、進化の速度は止まったか、もしくはゆっくりに見えます。それに対して、これまでになかった新しいジャンルの調理道具、たとえば3Dフードプリンタなどは、進化でたとえれば自然選択よりも〝遺伝子浮動〟という偶然の効果が強く、最初に登場した機種がその後に大きな影響を及ぼし、見た目や機能などの進化はより速くなることでしょう。

テクノロジーは、可能性を検索するもの、すなわち好奇心の道具ともいえますが、おいしい料理を作りたい、簡単に作りたいという気持ちが人間の願望にあり、この願望が、テクノロジーの方向性を決めているともいえます。

――石川伸一『「食べること」の進化史　培養肉・昆虫食・3Dフードプリンタ』より（一部省略）――

（注1）カトラリー……食卓用のナイフ、フォーク、スプーンなどの総称。

問一　傍線部ⓐ～ⓗのカタカナを漢字に改め、漢字には読みがなをつけよ。

問二　空欄［A］～［D］に入る最も適切な語句を次の中からそれぞれ一つ選び、番号で答えよ。なお、同じ選択肢を二度以上使用することができる。

①　たとえば　②　したがって　③　また　④　しかし　⑤　つまり

問三　傍線部㋐で、筆者は「テクノロジー」をどのようなものとしてとらえているか。本文中の表現を用いて四十字以内で述べよ。

問四　傍線部㋑のようであったのは何によるものか。筆者が考える理由を示している部分を本文中から抜き出し、最初と最後の五文字を書け。

問五　傍線部㋒の説明として最も適切なものを次の中から一つ選び、番号で答えよ。

①　新たに導入されても、従来のものとまったく分け隔てなく利用される立場。

②　本来の目標をはるかに超えるような結末を迎えても評価がゆるがない立場。

③　技術的な創意工夫によって発展し、社会の状況に合わせて活用される立場。

④　善し悪しの判断にそれ自体は関与せず、使用する人間に判断を委ねる立場。

⑤　その用途や目標が周りの社会や環境と無関係であり、影響を受けない立場。

問六　傍線部㋓の具体例を本文中より二組探し、それぞれの元となったテクノロジーとその食の世界への応用を表している語句を抜き出して書け。いずれの部分も八文字以内とする。

問七　傍線部㋔のようなものをテクノロジーの歴史の中に位置づけて表している語句を本文中から十字以内で抜き出して書け。

問八　傍線部㋕の問題を端的に表している語句を本文中から十字以内で抜き出して書け。

問九　本文を通しての著者の主張に最も合致するものを次の中から一つ選び、番号で答えよ。

① テクノロジー全体の歴史の中で表舞台に立つことのなかった食べものに関するテクノロジー、とりわけ調理道具や調理機器が脚光を浴びるときがくる。

② 最新の自動調理家電が次々と登場するにしたがって、それらと共存している包丁やおたまといった手動の道具は徐々に利用されなくなる。

③ 近代科学の登場が新しい料理を生み出す原動力となり、そのおかげで非常に多くのテクノロジーが集積し、現在のキッチンに詰まっている。

④ 調理道具の栄枯盛衰の様相は、社会や環境の変化に影響されて変わっていくだろうが、そこには料理を作る人々が持つ願望も大きく関係している。

⑤ キッチンにある調理道具や調理機器の新たな利用法を考案することが、未来のキッチンテクノロジーの在り方を考える上で重要である。

【二】

次の文章を読み、後の問いに答えよ。

［解説］ 主人公の「集」と「一個下の友だち」である「ひじり」は児童養護施設（本文中では「園」と呼ばれている）から小学校に通っている。「正木先生」と「上田先生」は「園」の職員で、正木先生は妊娠中でまもなく産休に入る予定である。「よしいち」と「一ノ蔵」は集の小学校の同級生で自宅から通学しており、集をあだなで「立山」と呼んでいる。

夏休みが終わった頃から、よしいちは聞こえんくらいの声で「シャッタ、ン、ハ」って言っとる。一回聞いたら、恥ずかしそうに「うん、喉の体操。癖になってもた」と答えとった。気にしないようにしようとするとよけい目立った。ハ、のところで喉を開くようにしてるんやろう。やってみると、これは声出さなそら意味ないな。よしいちの家の駐車場で、みんなが来るのを待ってる。「一個下の友だちがな、園の先生に嫌がらせされてんねん、たぶん」どんなん？ともちろんよしいちは聞いてきて、ひじりがされたこと、Ⓐ＿＿俺が思ったことを一から説明していく元気はなかった。出来事二つだけ話した。「セクハラやろそれ、Ⓑ＿＿俺が謝らしたろか」「どうやって？悪いと思ってないんかも」分からさな、とよしいちは自分の言葉にうなずく。「でもええねん、園で解決するし。妊娠中でお腹大きいしな、その先生。もうすぐ休み入るわ」と言うと、「腹立つやろ、そんなおばはんにやられとって」とよしいちは言った。「立山はそのセクハラに、何か言ってやらんの？」そうか、こんなに怒るべきことなんかもしれん。「自分で言うから何もせんといてってその子は言うねん。先生もいなくなるし」よしいちは腕を組んで「施設はそういうところ㋑＿＿なん？」と聞いてくる、そこだけ急に恥ずかしく感じる。「変なところ㋒＿＿ではないよ」と返事するしかなかった。よしいちの家はちゃんと本物のレンガが積んであるマンションやもんな。ちょっとこっちを見てからごめん、と言い「一ノ蔵もさ、たぶん誰かにそういうことされてたか、されてるよな」とよしいちは続ける。「知らん。言っとったん？」何となくやけど、とよしいちは言う。「あいつめっちゃ下ネタ言うやん。そういう奴おんねんって母さんに言ったら、母さん仕事カウンセラーやから、Ⓒ＿＿俺もそれなら納得いくなと思って」そうやったら大変やなと俺は返事して、でもよしいちのシャッタ、ン、ハやって、そんなに直線で説明できる何かがあるもんやろか。俺たちが気を付けといたらんとな、と言ってよしいちは駐車場の大きな車を「ⓐ＿＿ショウライ俺はこういう車買うねん」と指差す。「茶色ってこと？」「ブロンズで、三列シートってこと。あとこの取っ手みたいなんが外の天井に付いとる。でもあんな竹のⓑ＿＿座布団はよう敷かん」そんなんは考えたことなかったな。Ⓓ＿＿「俺もこの中から選ぶ」と言って、よしいちから離れるように人の車を一個ずつ評価していく。

礼をしてカバン背負ったら教室によしいちたちはもうおらんかったから、ひじりを待って、電柱に取り付けられた吸い殻用の缶々を数えながら帰った。十七個あった。途中で俊に会って、門から入ると事務所前に人だかりやった。どうしたん、と前の方にいる女子に聞く。「正木先生が後ろから、正門前で子どもにぶつかられたらしい。転んだんやて」「園の子？」「ちょうど門に入る直前のとこやったし見てへんから分からんねんて、ついさっき。タクシー呼んで病院すぐ行っとった」事情チョウシュ(ⓒ)や、ついさっきやったら、俺のアリバイは集とひじりに聞いてと俊は騒いどった。他の棟の子たちにも聞くからなかなかや(エ)。順番を待つのは暇でキンチョウ(ⓓ)して「誰かの稲を私は背負ってあげたい」と、事務所前に貼られた今月の言葉を小さく読み上げてみた。稲だけでは足らんやろう、と思った。俺は上田先生に事情を聞かれた。時間と人の目は絶対的なもんで、集たちは無理やな(オ)、と先生は考えて言った。順番が終わって、俺を待ってたひじりに手を振る。「夕ご飯たぶんまだやろ。駅の向こう行こうや。淀川見てもええし」（中略）

テイボウ(ⓔ)に上がると梅田側はビルがたくさん建っとって、ここからはこんな景色なんや。ひじりも横で、全然違う、と見渡してる、向こう岸ばっかり見てまう。電車が同時に三本、橋を渡って鏡みたいなビルの間に吸い込まれる。「こっちはこんな広々なんや」と言うひじりに「正木先生転んだんが(カ)、俺のせいやったらどうする？」と聞く。ひじりはこっちを見、こかしたん集君なん？と聞いてくる。「学校から一緒に帰ってきたやんか。俺は無理やろ」まあそれはそう、とひじりは川に向き直る、そのまま黙っとった。舗装(ⓕ)された一本道が遠くまで続いとって、そこから川に下りてみてもテイボウはもう角度の急なコンクリートの壁やった。

――井戸川射子『ここはとても速い川』より――

問一　傍線部ⓑⓕの漢字の読みがなを記せ。

問二　カタカナを漢字に書き改めたときに傍線部ⓐⓒⓓⓔと同じ漢字を含むものとして、最も適切なものを次の中からそれぞれ一つ選び、番号で答えよ。

ⓐ　①　ショウブ　②　ショウブン　③　カンショウ　④　シュショウ

ⓒ　①　チョウヘイ　②　チョウコウ　③　ヤシュ　④　ギョウシュ

ⓓ　①　キンダン　②　キンショウ　③　エンキン　④　キッキン

ⓔ　①　テイシュツ　②　テイシュ　③　キュウボウ　④　コウボウ

問三　傍線部Ⓐ Ⓑ Ⓒ Ⓓ Ⓔ のなかから、主人公の「集」を指しているものを**三つ**選び、Ⓐ～Ⓔの記号で答えよ。（順不同）

問四　傍線部㋐が指している人物の名前を答えよ。

問五　傍線部㋑では、施設は「どういうところ」なのかと尋ねているのか、二十字以内で説明せよ。

問六　傍線部㋒について、「ごめん」と謝ったのはだれか、人物名で答えよ。また謝った理由は何か、二十字以内で説明せよ。

問七　傍線部㋓はここではどういうことか、簡潔に説明せよ。

問八　傍線部㋔では、何が「無理」だというのか、簡潔に説明せよ。

問九　傍線部㋕について、集はなぜ「俺のせいやったら」と考えているのか、六十字以内で説明せよ。